

狭山にゆかりのある文化人紹介 その18

あおき じゅんご

小説家 青木 淳悟

1979(昭和54)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

1979(昭和54)年5月9日、狭山市大字北入曾に青木家の二男として生まれる。1985(同60)年、狭山市立入間野小学校に入学。淳悟少年は幼少時から天文学に興味を持ち、天文学者になりたいと考え、イギリスの物理学者・ホーキング博士の著作や宇宙関係の本に夢中になる。そして6年生を迎えると、江戸川乱歩の『怪人二十面相』や那須正幹の『ズッコケ三人組』に読みふけた。1991(平成3)年、狭山市立入間野中学校に入学。1994(同6)年、憧れの埼玉県立所沢北高等学校に進学すると、司馬遼太郎の著作に没頭した。高校最後の三者面談でいきなり「小説家になる」と宣言し、学級担任を驚かせた。1997(同9)年、早稲田大学第二文学部に入学し、人気の表現・芸術系を専行。1年次、文学基礎演習で小説を書く課題が与えられ、文学作品を書き始めた。大学を卒業すると、様々な職業を経験しながら作家活動を続ける。何度も引っ越しを繰り返したが、現在は所沢市に在住する。そして、現代文学を代表する作家として活躍中である。



2. 主な業績

- ① 2003(平成15)年、『四十日と四十夜のメルヘン』で第35回新潮新人賞を受賞し、作家デビュー。その時、選考委員の保坂和志氏から高く評価される。単行本に書き直すと好評を博し、さらに文庫本化に際し表現を大きく書き改めた。
 - ② 2005(同17)年、新潮社刊行の作品集『四十日と四十夜のメルヘン』で、第27回野間文芸新人賞を受賞する。
 - ③ 2009(同21)年、『このあいだ東京でね』で第22回三島由紀夫賞の候補となる。
 - ④ 2012(同24)年、『私のいない高校』で第25回三島由紀夫賞を受賞する。
- 『いい子は家で』『このあいだ東京でね』『私のいない高校』『男一代之改革』『匿名芸術家』や、「プロ野Qさつじん事件」「憧れの世界」などの作品がある。

3. 特筆

青木氏は西武新宿線沿線の東京都杉並区下井草や狭山市を舞台にした小説を多く執筆し、独特な執筆手法を取り入れ、独自の空間を描いている。そして、2014(平成26)年9月発表の『学校の近くの家』は、多くの読者に注目された。ちなみに、本作は狭山市入曾地区の、ある小学校に通う小学5年生の目を通して、1990(同2)年代の狭山市近辺を舞台にして子供たちの世界を鮮やかに描写している。

〈出所〉埼玉新聞 2022(令和4年)10月27日付 文責：権田恒夫



編集後記

- ★元日から能登半島地震、台湾の大地震、地元でも安心できないと思ってた矢先、4月の会報会議中に2回も揺れを体感。イベント実施の私たちも常に心がけていく必要がある。
- ★市民芸術祭、まだ寒さの残る中たくさんの来場者。特に25日は朝から雨。中ホール第二部の竹間沢車人形公演。秩父小鹿野の子供歌舞伎は知っていたが、近くに素晴らしい古典芸能が継承されていたのには驚き。関係者の努力を思い、埼玉県の広報で紹介もあり、グッドタイミングだった。
- ★桜まつり3月開催が皮肉にも10年来の遅咲き。桜は咲かなくても好天に恵まれ大成功。若い女性の役員たちが効率よく動いて頼もしい。入学式に満開も、これはよかった。(高沢正夫)



文団連HP
www.bunren.org